



ユニセフ講演会「カンボジアの理科教育支援の取り組み」を開催 2018/10/10

カンボジア、教育の量と質の向上のために継続的な支援が必要

“少ない実験器具に苦勞” “電気・水道なしでの実験観察”

奈良教育大学 共催 講師 森本弘一 奈良教育大学教授

2018 年 10 月 10 日、奈良県ユニセフ協会と奈良教育大学の共催によるユニセフ講演会が、奈良教育大学において開催されました。

講師の森本弘一教授は、小・中・高の理科・生物教材の開発、紫外線教材、光生物学教材の開発に取り組む。講演では、2000 年から行っているカンボジアの理科教育支援について紹介がありました。

低いカンボジアの就学率 — 小学校 90%、中学校 25%

カンボジアは、1970 年のクーデタ以降、内戦がつづいていたが、1993 年に国連カンボジア暫定統治機構(UNTAC)のもとで総選挙がおこなわれ、立憲君主国として樹立した。2017 年 1 人あたり GDP 1,390 ドル(日本 34,000 ドル)である。就学率は、小学校が約 90%、中学校は約 25%、高等学校は 10%未満である。識字率は、78.3%である。

顕微鏡の操作ができる教員が少なかった(2000 - 2005 年)

最初に参加したプロジェクトは、JICA による STEPSAM プロジェクト(理数教育改善プロジェクト 2000 - 2005)である。高等学校カリキュラムに沿ったカンボジアで実施可能な実験を開発し、高等学校教員養成校の教官を訓練した。顕微鏡操作を行うことができる教員が少なかった。ワークショップを開催し、実験器具と実験ガイドブック、ワークシートを配布した。この頃のカンボジア



理科教育研修中の先生

の理科の授業は、教師が板書して子供が写すというスタイルが多かった。教科書が一人一冊保証されておらず、教科書は教室保存が多かった。

理科教員の授業力の向上を目指す(2009 - 2012 年)

次のプロジェクトは、JICA の STEPSAM2(2009 - 2012)であり、小学校教員養成校、中学校教員養成校の理科の教員の授業力の向上を目指していた。理科授業に問題解決型の授業を導入し、授業研究を定着させることが目的であった。ワークショップでは、模擬授業、実際の授業と協議会が行われた。この頃になると、首都プノンペンのワークショップでは、顕微鏡を操作できる教員が見られるようになったが、地方都市のワークショップでは、顕微

鏡を扱った経験がない教員が数多くいた。子どものようにはしゃいで、顕微鏡で試料を観察する様子が見られた。

理科教育のレベルが徐々に向上(2013 - 2016 年)

そして、JICA の STEPSAM3(2013 - 2016)に参加した。これは、中学校理科教師用指導書作成プロジェクトであり、教科書を補完する教師用指導書作成を目指していた。カンボジアで実施可能な実験を紹介し、学習展開を示す。教師が教室で生徒に話すことができる話題などを含むよう作成した。この頃になると、教員の中には、日本に留学して、修士を取得する者が出てくるようになってきており、理科教育のレベルが徐々に向上してきた。



カンボジアの子どもたち

子どもたちのノートの字がきれい？！

カンボジアで理科授業改善に取り組んできた。カンボジアには、実験器具が少ないため、苦勞することが多いが、解剖教材は、市場で容易に入手できるため、日本よりも実施しやすい内容もある。また、子ども達のノートの字がきれいである。これは、学校でしか理科の内容を学習する機会がないことが原因であるが、日本の子ども達に是非紹介したいものである。これまで参加したプロジェクトは、いずれも数年間で成果を求められてきた。教育プロジェクトはもう少し長い時間をかけないと成果を出すことが難しいことを多くの方々に認識して欲しいものである。(森本弘一教授 筆)

**募金協力(学校・その他団体) 2018 年 7 月~12 月
ご支援ありがとうございました！**

奈良県協会お預かり分(敬称略) 本部への直接振込分を除く

榛生昇陽高校、富雄南小学校、平城中学校
富雄中学校、富雄中学校地域教育協議会
富雄北小学校、酒蔵まつり、ラブウォーク参加者
木津川市老人クラブ連合会加茂支部、佐保商事
佐保ゴルフクラブフレンドリーコンペ参加者
わらべうたフェスタ、河合第一中学校、HugHug祭り



※学校内募金等の贈呈式にお伺いいたします。ご連絡ください。

2018年 7月～12月 活動報告

2018年10月21日 日本ボーイスカウト奈良県連盟共催 ラブ・ウォーク「町家のかかし巡り」を開催しました 土佐街道 200体のかかしがお出迎え！

ウォーキングで快い汗をかく、それがユニセフを通じて世界の子どもたちの支援になる、というユニークな活動がユニセフ・ラブ・ウォークです。今回は、奈良県高取町の土佐街道筋にかけ



て約5kmのコースを歩き、秋晴れの一日、爽やかな汗を流しました。

当日は市民やボーイスカウトら大人68名と子ども77名の総勢14

5名が参加。壺阪山駅をスタートし、10月1日から開催されている「高取かかし祭り」で、同駅前から土佐街道にかけて並ぶ約200体の「町家のかかし」を楽しみながらゴールのキトラ古墳を目指しました。おじいちゃんやおばあちゃん、七福神、そしてかわいい牛さんなど、色々なユーモラスなかかしが出迎えてくれました。

ゴールは、石室内の天井や壁に描かれた天文図などの壁画で知られるキトラ古墳です。ゴール後は、古墳前の芝生広場で県ユニセフ協会や日本ボーイスカウトの支援企業・団体等から提供いただいた景品を賞品に抽選会を行いました。参加者はさらにキトラ古墳や古墳壁画体験館を見学したり、周辺を散策するなど思い思いに秋の一日を満喫しました。



2018年9月16日 春日大社奉納「手洗いダンス」 ダンスで手洗いの大切さを伝えました 春日野音楽祭 奈良公園浮雲園地

2018年9月16日、奈良公園で開催された春日野音楽祭で「世界手洗いの日プロジェクト」のイベントが行われました。



日本ユニセフ協会と県ユニセフ協会のメンバーが、子どもたちと一緒にステージで楽しく「手洗いダンス」を踊り、正しい手洗いの大切さ

と手洗いのコツを伝えました。

日本ユニセフ協会では、手洗いで必要な手の6か所を楽しく覚えらる「世界手洗いダンス」をつくり、子どもたちに“正しい

手洗い”を広めるとともに、世界の子どもたちの状況や衛生の問題などを伝えています。

2018年8月27日～31日 奈良市役所で写真パネル展を開催 「ユニセフってなあに」

2018年8月27日～31日、奈良市役所において、写真パネル展「ユニセフってなあに」を開催しました。



市民の方々へ、ユニセフの主な活動内容を、保健・水と衛生・栄養・教育・緊急支援・女性への支援などテーマ別に、分かりやすくまとめて紹介するとともに、栄養食のプランピーナッツやポリオワクチンなどを展示して、子どもたちにやさしい地球を残すために、ユニセフと一緒に考え、行動していただくことを呼びかけました。

2018年10月10日～21日 写真パネル展を開催しました 「ユニセフによる戦後日本の子どもたちへの支援」 会場：奈良県図書情報館1階ロビー

2018年10月10日～21日、奈良県図書情報館の1階ロビーにおいて写真パネル展「ユニセフによる戦後日本の子どもたちへの支援」（奈良県図書情報館共催）を開催しました。

ユニセフは、第二次世界大戦後の1949年（昭和24年）から1964年（昭和39年）まで15年間にわたり、日本の子どもたちの健康、福祉を推進するための支援を続けました。



支援物資の粉ミルクや原綿が届き、給食や衣類が提供され喜び子どもたちの姿。乳児検診など医療面の支援、ユニセフの支援に感謝する会を催している風景など。当時の写真を通じて、今につながるユニセフの自立を目指した支援の様子を感じていただきたい、という思いから今回のパネル展を開催しました。

ご来場いただいた方から、『私は1949年に生まれました



ので、給食に粉ミルクを飲んで大きくなった世代です。その時は、アメリカ（GHQ）が日本の子どもたちの成長を支援してくださっていると思っていました。ごく最近ま

で……。ユニセフによって支給されたと知って感謝するとともに、ユニセフの援助で助けられる世界の子どもたちのため、微力ながら自分も何か役立ちたいと思っています。』という感想が寄せられました。（感想ノートより）

団体紹介(ユニークな活動への取り組みを紹介します)

木津川市老人クラブ連合会加茂支部

「チャリティーカラオケ大会」が開催されました

2018年10月28日 加茂文化センターあじさいホール

30人が熱唱、自慢ののどを披露！

2018年10月28日、木津川市老人クラブ連合会加茂支部主催(後援：奈良県ユニセフ協会ほか)の「チャリティーカラオケ大会」が、加茂文化センターで行われました。会場受付で、老人クラブの方からユニセフ募金を呼びかけていただきました。



これまで、木津川市の南加茂台団地のシルバー会において、毎年開催されるチャリティーカラオケ大会の参加費等を、ユニセフ募金としてご協力をいただけてきました。この度、対象を南加茂台団地から加茂地区全体へと拡大し、会場も加茂文化センターに移し、新しく「チャリティーカラオケ大会」が開催されました。

大会は30名の参加者が次々とステージに登場。演歌あり、歌謡曲あり、鍛えたのどで自慢の歌声を披露し、応援の家族や友人の声援と拍手が相まって、会場は熱気に包まれていました。



なお、会場で寄せられた善意は大会の参加費等もあわせて、ユニセフ募金へご支援いただきました。お礼申し上げます。

ご協力、ありがとうございました！

2018年1月～2018年12月までの間、奈良県

ユニセフ協会にお寄せいただいた募金総額は、

¥ 2,189,640 - にのびりました。



皆さまの温かいご支援に心よりお礼申し上げます。

※振込用紙の通信欄に「県協会コード K1-290」とご記入いただいた分も含みます。(募金総額は速報値です)

ユニセフ活動を紹介

2018/11/18

「市民メディカルラリー」にブース出展

会場：イオンモール高の原

県ユニセフ協会では、毎年、色々なイベントにブースを設け、多くの人にユニセフ活動を紹介しています。

2018年は恒例の「わらべうたフェスタ」(10/23 ならまちセンター)「HugHug 祭り」(12/2 はぐくみセンター)に加え、今回、初めて開催された「市民メディカルラリー」(11/18 イオンモール高の原)にユニセフ・ブースを出展しました。

パネル「ユニセフってなあに」を掲示、水がめや支援グッズのプランピーナッツ、浄水剤、ワクチンのほか、地雷(レパリカ)も展示して世界の子どもの置かれた現状を紹介しました。



【メディカルラリー】医療資格を持たない市民がチームを組み、災害対応の技術を競い合う技能コンテスト

2018年7月～2018年12月 活動報告

すべての子どもに5歳の誕生日を！

第40回 **ハンド・イン・ハンド募金** 2018/12/23

ご支援・ご協力ありがとうございました

“手に手をとって”を意味する「ユニセフ ハンド・イン・ハンド」募金は、1979年の国際児童年にはじまり、2018年で40回目を迎えました。毎年11月～12月をハンド・イン・ハンド募金月間とし、ユニセフを支援くださる全国のみなさまが、街頭やイベント、職場や学校で、またご家庭の中で、募金活動に工夫を凝らしてくださっています。

奈良県ユニセフ協会では、12月23日に近鉄奈良駅、八木駅、西大寺駅、生駒駅、JR王寺駅の各駅前で、ハンド・イン・ハンド募金を呼びかけました。県ユニセフ協会のボランティアと一緒に、高校生や中学生、子どもたちも参加して、道行く人に元気に声をかけてくれました。

ユニセフ募金へのご支援・ご協力をありがとうございました。



中学生も一緒に声かけ！

－ 出前学習会を行いませんか －

奈良県ユニセフ協会ではスタッフが学校を訪問して学習を行う、出前学習(講師派遣)を行っています。

映像や体験などを取り入れ、「今、世界でどんなことが起きているのか」「世界の子どもたちはどんな生活をしているのか」を学びます。(事務所までお問い合わせください。)

※ DVD 教材の貸し出しも行っています

出前学習の進め方

- ① 出前学習会の打ち合わせ(約1か月前)
日程調整、プログラム、体験学習
- ② 会場・教室の下見(約1週間前)
プロジェクター等の作動・映写確認
- ③ 出前学習会の開催(当日)



ボランティア募集

奈良県ユニセフ協会では、下記の活動を手伝っていただけるボランティアを募集しています。

学生の方も大歓迎です。

世界の子どもたちの現状、ユニセフやボランティア活動に関心をお持ちの方、私たちと一緒に楽しく活動を始めませんか。

お気軽に事務所までお問い合わせください。

- ◆ 募金活動
- ◆ イベント参加
- ◆ ユニセフ学習会講師
- ◆ 機関紙発行
- ◆ 事務所でのお手伝い



賛助会員募集

日本ユニセフ協会の趣旨に賛同してくださる会員を募集しています。

賛助会員とは、日本ユニセフ協会と奈良県ユニセフ協会の運営を、年会費によってご支援いただく方法です。

種類	対象	賛助会費	賛助会員期間
一般賛助会員	個人の方	1口5千円	入会月～1年間
学生賛助会員	18歳以上の学生の方	1口2千円	入会月～1年間
団体賛助会員	団体・法人・企業	1口10万円	入会月～1年間

- * 一般・学生賛助会員は、個人名でのお申し込みに限ります。
- * 賛助会費は寄付金控除の対象になります。
- * 会員期間は入会月から一年毎の更新となります。
- * 賛助会費は、1口以上何口でもご協力いただけます。

使用済み切手回収

「使用済み切手」を集めています。皆さまのご協力をお願いします。

消印を押された使用済み切手も、換金され募金として役立っています。お寄せいただいた使用済み切手は、開発途上国の子どもたちの命と健康、権利を守るためのユニセフ（国連児童基金）の活動に活用させていただきます。

切手は無理に剥がさずに、切手の回りに1センチほどの余裕を持って切り取って下さい。



使用済み切手のほかにも集めています。

未使用切手 **書き損じハガキ** **使い残しハガキ**

* 奈良県ユニセフ協会事務所へご持参ください。

* 郵便で奈良県ユニセフ協会事務所へお送りください。

編集後記

2018年「ノーベル平和賞」には、コンゴ民主共和国のデニス・ムクヴェゲ医師とイラクのヤジディ教徒ナディア・ムラドさんが、今も続く性暴力やマイノリティ（少数派）迫害に対する国際社会への取り組み活動に対して授与されました。

いずれも紛争地における暴力撲滅を訴えたものであり、一番被害に晒される子どもや女性に対する性暴力は、決して許されません。

県ユニセフ協会では、講演会・写真パネル展・出前学習のほか、各種イベントや募金活動等の機会をとらえ、すべての子どもたちが健やかに成長できる世界の実現を目指して、皆さまのご理解ご協力をお願いしております。（K. K）



※ 鹿のイラストはすべて、ボランティア大西好美さんの作品です。



奈良県ユニセフ協会

〒630-8301

奈良県奈良市高畑町 1116-6 ^{どれん} なら土連会館 2階

TEL : 0742-25-3005 / FAX : 0742-25-3008

E-mail : unicef-n@m4.kcn.ne.jp

ホームページ : <http://www.unicef-nara.jp/>

※事務所開所日：月・火・水・木 11:00～16:00

募金して頂ける方、ユニセフDVD等の資料をご入用の方、ユニセフ支援ギフトにご協力いただける方など、お気軽にお越しください。



※ 2018年1月に事務所を移転しています